

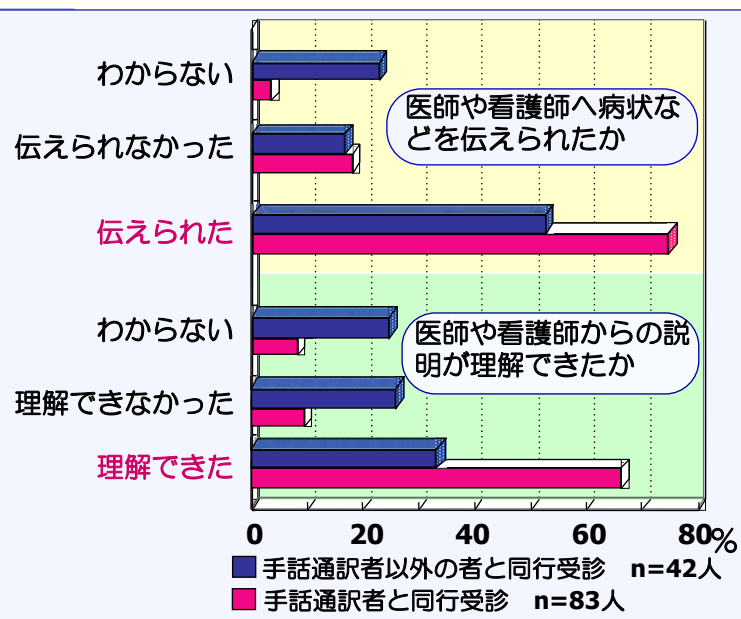
手話通訳者の健康管理

手話通訳者等の頸肩腕障害の基礎知識と予防対策

びわこリハビリテーション専門職大学
教授 埴田 和史

1

手話通訳者の利用有無別 医療機関でのコミュニケーション状況



2

手話通訳者の健康問題の歴史（１）

- ◆ 1979年：札幌市嘱託手話通訳者公務災害申請
- ◆ 1988年7月：手話通訳者の頸肩腕障害患者を診察
- ◆ 1988年：滋賀県団体手話通訳者労災申請
産業衛生学会事例報告
- ◆ 1989年：第5回全通研討論集会滋賀事例報告
近畿地域専任手話通訳者健康調査
- ◆ 1990年：第1回全国専任手話通訳者健康調査
滋賀県事例労災認定
「いきいき手話通訳」出版
- ◆ 1991年：兵庫県事例労災認定
全通研夏の集会での頸肩腕障害検診開始
全日ろう連手話通訳者の健康問題取り組み開始

手話通訳者事例の症状の経過（１）

- ◆ 1987年4月～県ろうあ協会専任手話通訳者として勤務（82年から手話通訳者および事務職員として、県庁、障害者団体、市役所などに勤務歴あり）
- ◆ 所長に同行しての通訳業務や、電話による事務連絡を通訳することが多かった
- ◆ 5月～手話を使うと腕や肩のだるさをすぐに自覚
- ◆ 6月～コップを持つ手がふるえる
- ◆ 9月～「手話が下手になった」とろう者から指摘
- ◆ 11月～1988年1月 集会準備と報告作成の業務が加わり、徹夜でワープロ業務・・・肩こりや頭痛が生じたり、しびれや痛みが終日続くことあり
- ◆ 3月～左側の頸部から上肢の苦痛により、受話器をヘッドフォンタイプに変更
- ◆ 4月～出勤前の化粧や髪の手入れが困難になり、髪型をブラッシングやドライヤーの要らないものに変更

手話通訳者事例の症状の経過（２）

- ◆ 1988年4月から職員が1名増えて事務作業が軽減されるも、5月からは全国大会の準備で所長と同行する通訳作業が増える
- ◆ 6月中旬～仕事が終わっても腕や肩の痛みが持続、茶碗などを右手だけで洗うようになる
- ◆ 7月～肩こりや腕の痛みが頸を締めつける感じになり、強い頭痛や吐き気を伴う
- ◆ 通訳中、意識を集中できる時間がだんだん短くなる。
- ◆ 聞き取り通訳の時は、上肢・腰背部のしびれや痛みと極度の疲労感で手を動かすのに大きな努力がいるようになる
- ◆ 読み取り通訳では、手足は冷や汗でびしょりとなり、震えや激しい動悸、頸肩部から上肢へ、痛みに近いしびれが生じる
- ◆ 7月28日の講演会で、読み取り通訳を終えた後、極度の疲労と上記症状のため動けなくなった⇒2日間休養したが、症状改善なく、極度の疲労感、頸肩腕部の痛みとしびれ、手指のふるえて手腕が思い通りに動かせない⇒8月9日に受診



半数以上が要注意！

手話通訳者の健康診断を実施

第2回全国手話通訳者健康調査委員会青森会場にて

写真・はな 弘

5月24日、青森県立会場で第2回全国手話通訳者健康調査委員会青森会場が開催された。青森県立会場の会場は、青森県立会場の2階にある。青森県立会場の会場は、青森県立会場の2階にある。青森県立会場の会場は、青森県立会場の2階にある。

別名	人数	%
A	11人	25.6%
B	9人	20.9%
C	18人	41.9%
D	3人	7.1%
E	4人	10.0%

※A～Eは、調査結果から、健康状態を分類した。Aは健康状態が良好で、Bは健康状態がやや悪く、Cは健康状態が悪く、Dは健康状態が非常に悪く、Eは健康状態が不明である。




手話通訳者の健康問題の歴史（2）

- ◆ 1992年6月：静岡市が手話通訳の頸肩腕障害検診実施
- ◆ 1992年：手話通訳者頸腕患者全国交流集会開始
「手話通訳者けいわん患者・健康を守る会」設立
- ◆ 1993年9月：静岡県手話通訳者健康管理講習会事業開始
- ◆ 1993年：「ハートtoハート」出版
静岡、京都で登録者を含む手話通訳者検診開始
- ◆ 1994年：「みんなでめざそうよりよい手話通訳」出版
- ◆ 1995年：第2回全国専任手話通訳者健康調査
労働省「頸肩腕症候群対策」研究会報告で手話通訳者を危険職種とする
- ◆ 1997年：改正労災認定基準で手話通訳者を例示
- ◆ 1998年：厚生省「障害者の明るい暮らし」促進事業に関連して、手話通訳者への健康配慮と、安全教育指示
- ◆ 2000年：第3回全国専任手話通訳者健康調査
- ◆ 2000年：「手話通訳者の健康管理マニュアル」出版

手話通訳者の健康問題の歴史（3）

- ◆ 2003年：第1回登録手話通訳者健康調査
「ヒューマン手話通訳の発見」出版
- ◆ 2005年：第4回全国専任手話通訳者健康調査
- ◆ 2006年：「からだをほぐしていきいき仕事」ストレッチDVD出版
- ◆ 2007年：第2回登録手話通訳者健康調査
- ◆ 2010年：第5回全国専任手話通訳者健康調査
- ◆ 2013年：障害者総合支援法・地域生活支援事業に関連して、意思疎通者支援者の健康管理(頸肩腕障害、メンタルヘルス)指示
- ◆ 2015年：第6回全国専任手話通訳者健康調査
- ◆ 2016年：障害者差別解消法施行（公的機関等、合理的配慮義務）
- ◆ 2019年：「手話通訳者けいわん患者・健康を守る会」解散
- ◆ 2020年：第7回全国専任手話通訳者健康調査実施（厚労省補助事業）
- ◆ 2021年：改正障害者差別解消法成立（民間機関にも、合理的配慮義務）
- ◆ 2021年：電話リレーサービス制度運用開始



手話通訳者の職業病～頸肩腕障害

◆ 頸肩腕障害とは

- 腕や指を繰り返し使う仕事や、腕や頸を一定に保つ姿勢で行う仕事についている人たちに発生する職業病

仕事に関する心身の過剰な負担が原因で生じる

- なりやすい職種（手話通訳者以外）
- パソコンの操作をする人、福祉施設職員、介護職、盲ろう通訳介助員、保育士、養護学校教員、看護師、理美容師、調理員、組み立て作業従事者など

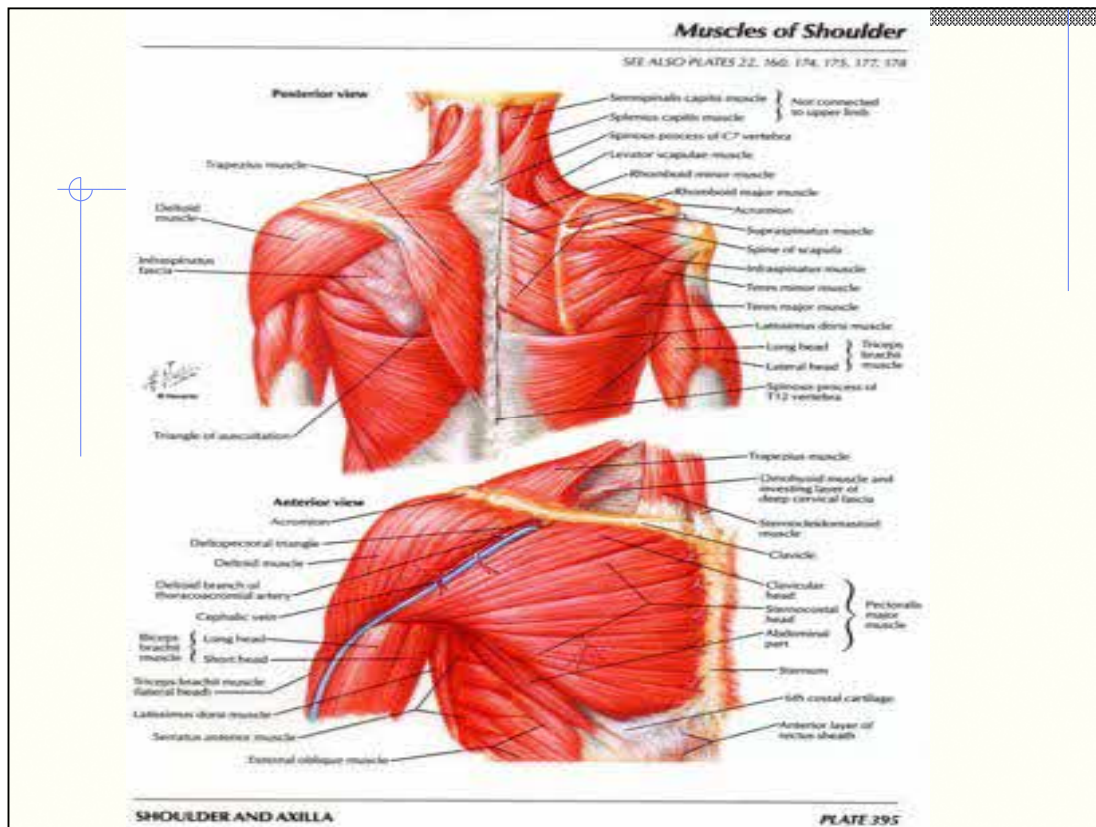
注意！「手話通訳をしていれば必ず頸肩腕障害が発生する」ということではありません

手話の構成

- ◆ 手指の動きと形
- ◆ 腕の動きと位置
- ◆ 口の動き
- ◆ 表情

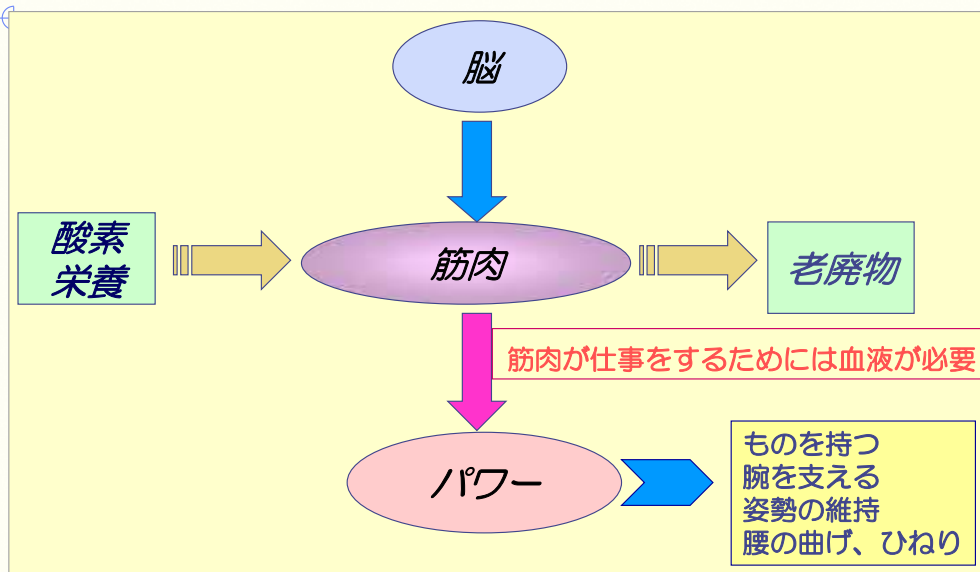
手話動作で筋肉が疲労する要因

- ◆ 言葉の速さに合わせて手話動作を続ける
- ◆ 相手に見やすい位置・姿勢を維持する
- ◆ 話の長さが相手任せ
- ◆ 無理な姿勢
腰のひねり、台上、
受話器を肩に挟む・・・など
- ◆ 寒冷環境下での通訳



13

動作を生み出す筋肉の働き



14

通訳による、心（頭・神経）への負担

- ◆ 音声から手話へ、手話から音声への同時通訳による負担
- ◆ 他人のコミュニケーションを代行する精神的負担

手話技術の未熟さ

手話通訳者への社会的理解の未熟さ

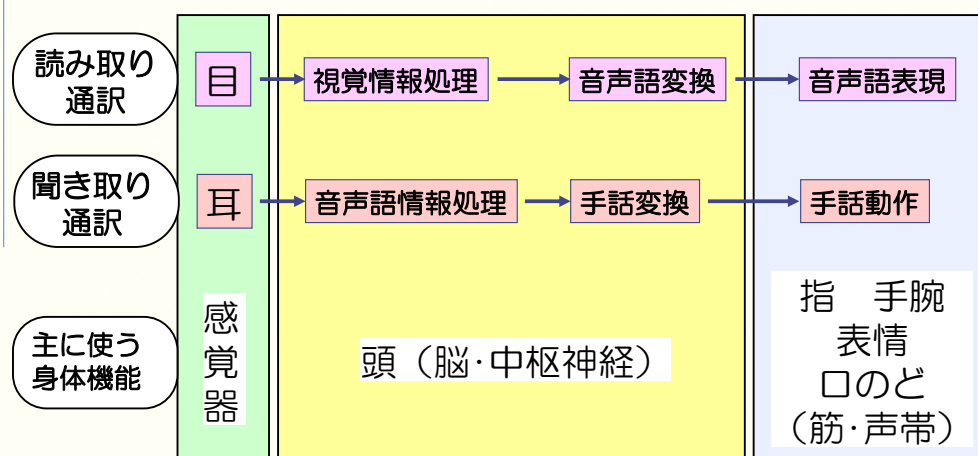
聴覚障害者との相互理解の未熟さ

- ◆ 障害者の苦しみを知り受け止める負担

障害者の苦しみを知るだけで、解決できないもどかしさ

15

読み取り通訳、聞き取り通訳時の体の使い方



16

心（頭・神経）の負担が原因で 生じる症状

- ◆ イライラ感
- ◆ 感情のもつれ、仲間割れ
- ◆ 不眠
- ◆ 気持ちのふさぎ込み、うつ症状
- ◆ ものわすれ
- ◆ 感情のコントロールが利きにくくなる
など

17

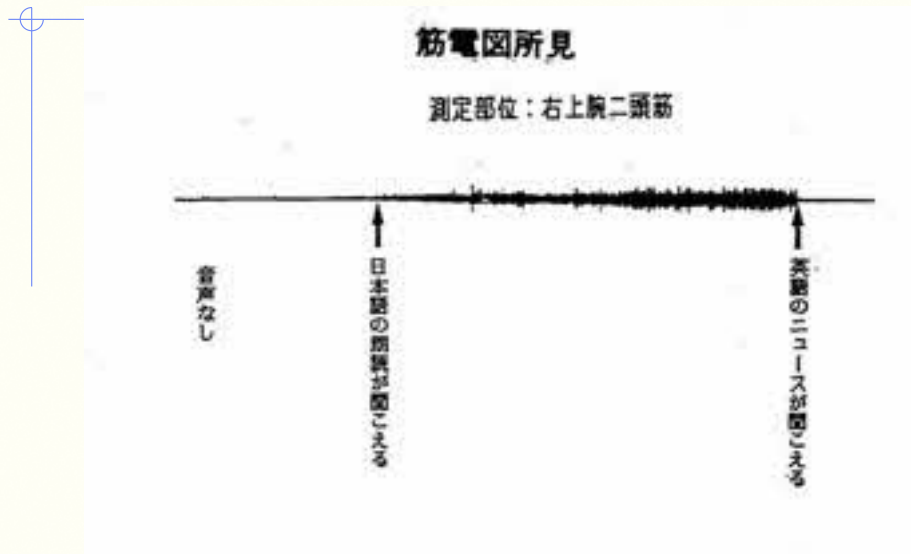
手話通訳者の特異的な自覚症状

- ◆ 「健聴者と会話していても手が動きそうになる」 (54%)
- ◆ 「人の話を聞いていると頸肩腕部が痛くなる」 (16%)

専任手話通訳者2000年度調査より

18

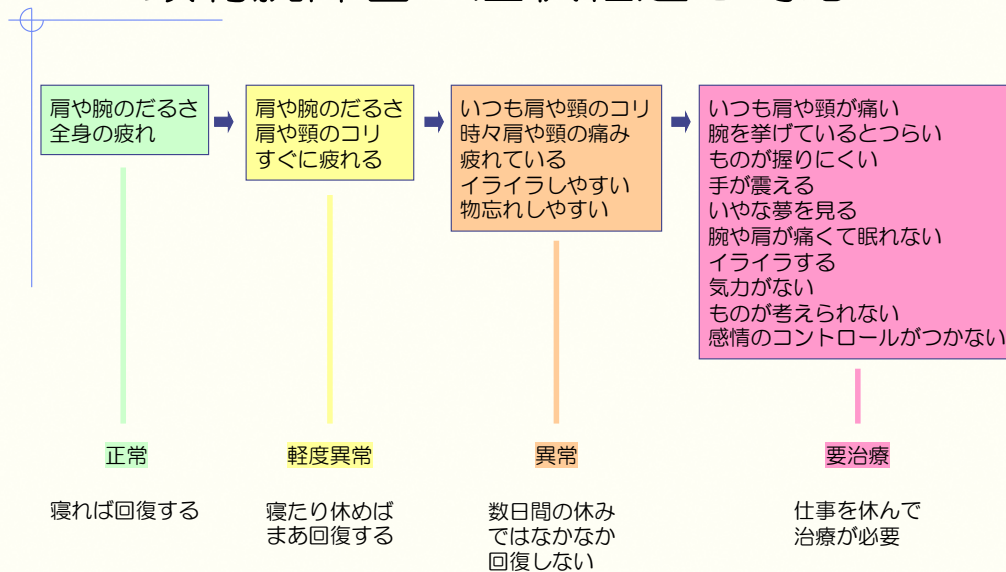
音声に反応して筋緊張が高まる手話通訳者例 (重症例で観察)



(西山勝夫, 埜田和史, 渡部眞也 : 手話通訳者の作業時の動作学筋電図. 産業医学, 34 : 184-185, 1992)

19

頸肩腕障害の症状経過と対応



20

手話通訳者に頸肩腕障害が多発した理由

- ◆ 聴覚障害者の社会参加に対して、手話通訳制度が未整備
 - ・手話通訳者に過重な負担
- ◆ 手話通訳に伴う心身の負担が未解明
 - 身体や心にとって過酷な負担
- ◆ 手話通訳のルールが未整備
 - 交代通訳、通訳利用者のマナー、電話通訳
- ◆ 手話通訳者の健康管理責任が不明
 - 雇用主の安全配慮義務、登録通訳者は誰が？

盲ろう通訳介助員調査結果 1

対象者は、各都道府県にある通訳・介助員派遣事業所に登録している通訳・介助員で、およそ月1回以上の派遣実績のある者とした。最終的に、全国で940名の通訳・介助員を対象に調査。
(2012年実施)

表2 通訳・介助活動の頻度と時間						
派遣頻度(回/月)						
	公費派遣		個人派遣		合計	
	平均	SD	平均	SD	平均	SD
平均的な月	3.1	2.7	2.9	2.8	4.0	3.5
多い月	5.4	3.6	4.7	4.1		

派遣1回あたりの時間(時間/回)						
	公費派遣		個人派遣		平均	
	平均	SD	平均	SD	平均	SD
平均的な月	3.3	1.7	3.2	1.8	3.2	1.6
長いとき	6.3	2.4	6.3	3.1		

表1 身体部位別自覚症状

		通訳・介助員 (n = 575)		専任手話通訳者女性 (n = 465)	
		いつも	いつも+時々	いつも	いつも+時々
肩	こる、だるい	左 35.7%	77.5%	19.4%	75.3%
	右 36.0%	79.2%	21.9%	82.8%	
肩	いたい	左 12.8%	41.8%	7.3%	36.3%
	右 14.3%	44.9%	9.5%	40.0%	
頸	こる、だるい	左 26.8%	70.3%	13.1%	58.1%
	右 27.5%	70.7%	14.2%	60.9%	
頸	いたい	左 9.5%	35.0%	4.3%	26.0%
	右 11.4%	35.9%	5.2%	27.5%	
背	だるい	左 8.2%	38.0%	4.7%	46.2%
	右 8.9%	38.9%	4.3%	40.2%	
背	いたい	左 4.1%	26.9%	4.3%	28.6%
	右 4.8%	28.1%	6.9%	40.4%	
腕	だるい	左 6.1%	36.2%	6.5%	46.9%
	右 8.4%	42.8%	7.7%	55.3%	
腕	いたい	左 4.3%	21.1%	3.0%	19.1%
	右 7.1%	29.3%	4.9%	26.9%	
手・指	しびれる	左 2.9%	16.2%	4.1%	19.1%
	右 2.9%	18.3%	4.1%	23.0%	
手・指	だるい	左 2.8%	18.2%	2.4%	26.7%
	右 4.3%	22.4%	4.5%	31.8%	
手・指	いたい	左 4.1%	15.6%	1.9%	13.1%
	右 4.9%	18.9%	2.8%	17.4%	
手・指	しびれる	左 2.6%	16.8%	3.0%	18.9%
	右 2.5%	19.9%	3.7%	25.2%	
手・指	ふるふる	左 1.7%	8.7%	1.3%	14.4%
	右 1.7%	10.9%	1.9%	19.6%	
手・指	ひえる	左 6.9%	26.1%	2.2%	22.2%
	右 7.2%	27.6%	2.2%	23.9%	
手・指	動きがわるい	左 3.8%	22.9%	1.5%	22.6%
	右 3.9%	25.0%	2.6%	26.2%	
腰	だるい	左 8.9%	50.0%	4.7%	46.2%
	右 9.5%	49.7%	4.9%	41.5%	
腰	痛い	左 10.0%	49.1%	6.9%	39.8%
	右 11.3%	51.1%	6.9%	40.4%	



触手話による通訳場面



手書き文字による通訳場面



指点字による通訳場面



ブリスタによる通訳場面

盲ろう通訳介助員調査結果3

表4 最も多く使う通訳方法
(n = 575)

触手話	47.7%
接近手話	15.5%
指文字	2.2%
手書き文字	6.5%
要約筆記	1.6%
パソコン	1.4%
音声通訳	19.3%
指点字	4.1%
ブリスタ	0.5%
その他	1.1%

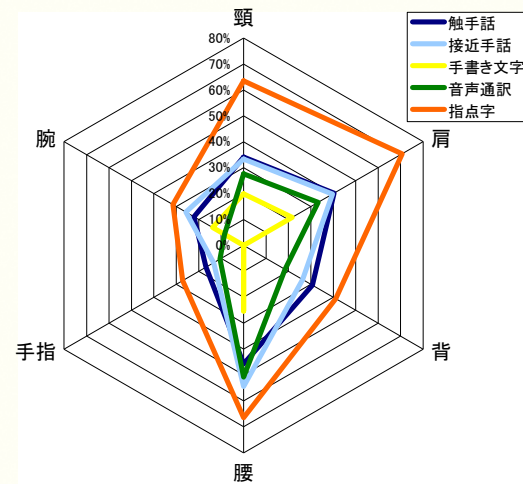


図2 通訳方法別年齢調整痛み訴え率(いつも+時々)

盲ろう通訳介助員調査結果2

表3-a 通訳頻度と年齢調整肩の痛み訴え率

	いつもある	時々ある	めったにない
低頻度	7.6%	24.1%	68.3%
中頻度	7.5%	27.4%	65.0%
高頻度	16.8%	35.1%	48.1%

p = 0.001

表3-b 通訳頻度と年齢調整首の痛み訴え率

	いつもある	時々ある	めったにない
低頻度	6.7%	19.8%	73.5%
中頻度	4.9%	22.6%	72.5%
高頻度	15.9%	32.3%	51.8%

p < 0.001

表3-c 通訳頻度と年齢調整背の痛み訴え率

	いつもある	時々ある	めったにない
低頻度	1.9%	19.2%	78.9%
中頻度	3.5%	17.2%	79.2%
高頻度	5.6%	32.5%	61.9%

p = 0.003

表3-d 通訳頻度と年齢調整腕の痛み訴え率

	いつもある	時々ある	めったにない
低頻度	1.2%	12.6%	86.2%
中頻度	4.0%	16.5%	79.5%
高頻度	5.5%	19.4%	75.1%

p = 0.053

低頻度群 月2回以下
中頻度群 月2回を越え、4回以下
高頻度群 月4回を越えた

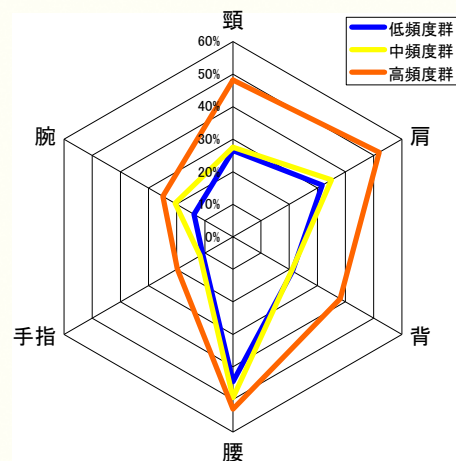


図1 派遣頻度別痛み訴え率(いつも+時々)

予防対策

5年ごとの全国調査を通じて点検

「よりパン」が予防対策の基本

- ① 「働き方」のルール
過重な働き方を防ぐ
○長時間通訳から交替通訳
○電話通訳時のイヤフォン、ヘッドホン利用
手話通訳者の新しい働き方の点検
- ② 健康管理
頸肩腕障害検診
ストレッチ体操
- ③ 学習

25



26

はじめに学ぶ

手話通訳は、ろう者、健聴者、手話通訳者の共同活動

このパンフレットは、つぎの目的をもって作成されたものです

手話通訳は、生身の身体を持つ人間が、ろうあ者「聞く権利・話す権利」をサポートする活動

手話通訳は、ろう者の権利を守る活動であるとともに、一面ろう者、健聴者、手話通訳者の共同の活動です。

実は、私たちろう者も反省するところですが、手話通訳の保障はろう者の権利としても、その活動が円滑に実施されるためには、私たちもそれにきちんとした理解をもたなければならない、と思うこの頃です。

もちろん、国際においては、私たちは手話通訳の保障を要求するに精一杯という事情があったことは確かです。けれども、私たちの運動の結果として、また困難な条件下に活動された手話通訳者の努力の成果として、手話通訳上巻制度が誕生するなど発展をみた今日、私たちはその実践の問題点を理解し、手話通訳活動を新しい段階にレベルアップしていくことが求められていると思います。

それは手話通訳活動を、障害者を世話し、世話される関係にとどめることなく、多様な条件の人々が生きていく社会の重要な構成要素としていくつもの場面に展開されるべき手話通訳制度の確立

手話通訳活動を、障害者を世話し、世話される関係にとどめることなく

手話通訳に関する制度的な保障は各地域でバラツキが大きく、各地で手話通訳者の健康破壊が進んでいる

全国手話通訳問題研究会
運営委員長 伊東 篤祐

現実的な課題として、手話通訳に関する制度的な保障は各地域でバラツキが大きく、各地で手話通訳者の健康破壊が進んでいる。

そのような状況の中であって今後、手話通訳業務の一定の水準を目的に確保し、手話通訳者の健康対策を図り、その制度的保障を奪っていくことが、とりも直さず聴覚障害者の平等な社会参加の手だてにつながるものと確信している。

27

2 ろうあ者の方々に

「よりパン」に学ぶ

健康や生活を支える

聴覚障害者

手話通訳者

コミュニケーションを支える

○手話通訳を依頼する場合は、早めに依頼しましょう

○依頼する日時・時間帯・場所・依頼する目的などを明確に伝え、双方が再確認しましょう

○必要に応じて、事前に手話通訳者と打ち合わせしましょう

○学校や自治会などの行事に手話通訳を必要とする場合は、主催者に手話通訳の必要性を伝えとともに、主催者から手話通訳の依頼をしてもらうようにしましょう

○ろうあ者自身が同行している手話通訳者を主催者などに紹介しましょう

○手話通訳の必要性や手話通訳者の役割などについて、手話通訳者とともに社会に啓発しましょう

○手話通訳をうけたのち、社会生活上の不安や悩み、また手話通訳に関しての問題などがあるときは、ろうあ者相談員や聴覚障害者情報提供施設・福祉行政・聴覚障害者関係団体などに相談しましょう

28

4 手話通訳者の健康管理

「よりパン」に学ぶ

「通訳」することは頭の中で「情報の高速処理」を行う作業です。正しく情報を伝達しようとすれば精神的疲労も大きくなります。音声言語から音声言語への通訳（外国語通訳）でもその精神的疲労はかなりのものがありますが、手話通訳の場合はさらに加えて、上半身をフルに活用しながらの言葉の伝達になります。腕を胸の高さに保ち指や手を言葉として動かし続けることは、肩や頸や腕の筋肉の疲労を生じさせ、「こり」や「いたみ」を招きます。読み取り通訳のときに目を凝らして手話を見続けることも、目の疲労や肩こりの原因となります。

普通、筋肉の疲労や精神的疲労は適度な心身の休息で回復します。しかし、十分な休息をとることなく精神的・身体的な限界を超えた通訳を繰り返すと、「頸肩腕障害」と言われる病気になることがあります。

健康管理上、以下の点に注意しましょう。

①ストレッチ体操をしましょう
(ハートtoハート、いきいき手話通訳：全通研発行)

手話通訳をするまえ、休憩時間、手話通訳終了時には体操をして筋肉の疲労を少なくしましょう



29

②保温に注意しましょう

頭や腕が冷えると筋肉の疲労が大きくなります。クーラーや扇風機の風を直接受けるようなところで手話通訳することは避けましょう

③休息、睡眠を十分にとりましょう

心身の疲労は睡眠と休息によって回復します。手話通訳で疲れた日にはゆっくり入浴した後ストレッチ体操をして十分な睡眠をとりましょう

④長時間連続（下表参照）して手話通訳するのはやめましょう

長時間連続して手話通訳をすると、手話通訳者が疲労し正しい手話通訳ができなくなります。また、手話通訳者の健康に不安がでえます。長時間の手話通訳は複数の手話通訳者が交替で行うようにしましょう。どうしても交替できない場合は、休憩時間を入れましょう。

連続手話通訳時間の目安

通訳場面・内容	手話通訳可能時間（分）
講演会 警察・検察 裁判	20
医療・教育 労働・生活 行政	25
テレビ (手話挿入)	15

これは1990年に行った全国調査の結果に基づき、交替する時間の目安を手話通訳内容別に示したもので、約半数の手話通訳者が手話通訳の質を低下させずに連続して手話通訳できるとした時間です。手話通訳者の健康状態や休息する条件の有無、手話通訳内容などを考慮して交替時間を考えましょう。

「よりパン」に学ぶ

30



2020年調査で明らかになったことは

全国調査より・・・ 手話通訳者は増えている？

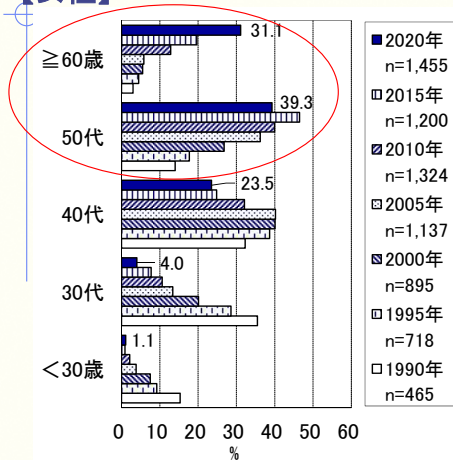
調査年別の「雇用された」手話通訳者数の変化

		1990年	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年
有効回答者数 (人)	男性	77	85	90	77	89	62	81
	女性	465	718	895	1,137	1,324	1,200	1,455
	合計	542	803	985	1,214	1,413	1,262	1,537
対象者数 (人)		598	844	1,147	1,376	1,535	1,803	1,989
回収率 (%)		90.6	95.1	85.9	88.2	92.1	70.0	77.3
対象者増加人数 (人)		-	246	303	229	159	268	186
対象者増加率 (%)		-	41	36	20	12	17	10

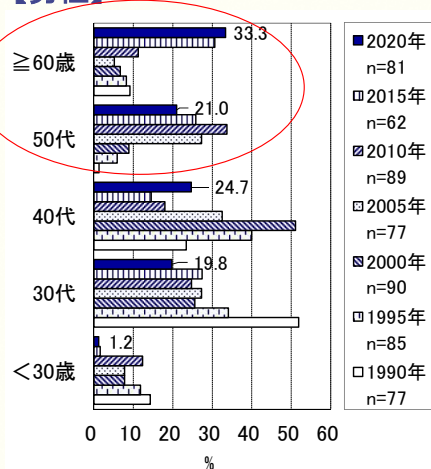
手話通訳者は増加しているが、必要数に達しているのか

高年齢化する手話通訳者

【女性】



【男性】



平均年齢（歳）

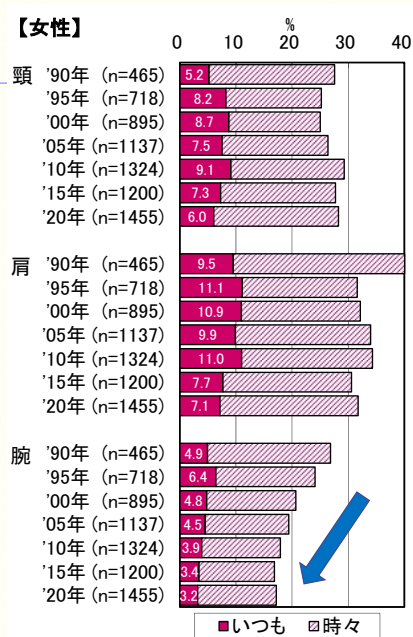
	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年
全体	37	42	45	47	50	52	54
女性	-	43	45	47	50	52	55
男性	-	42	43	44	45	50	51

2020年調査
平均年齢54.4歳

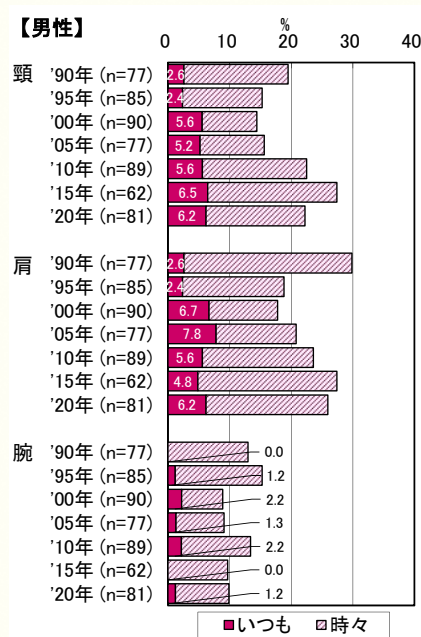
*1990年は男女別平均年齢のデータなし

頸・肩・腕部の痛み訴え率の経年変化（男女別）

【女性】



【男性】

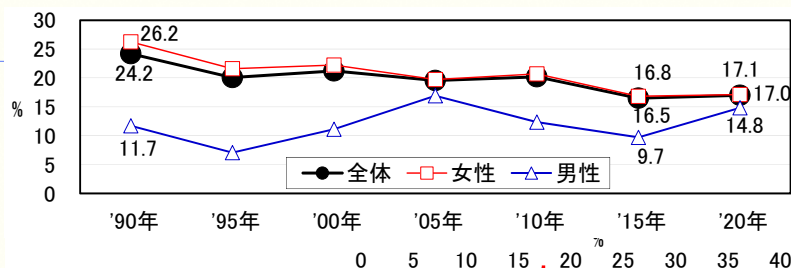
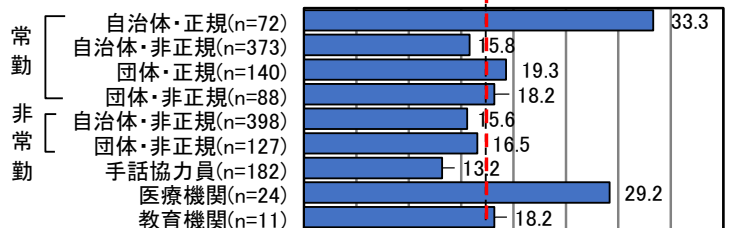


腕の痛み訴え率は改善傾向。肩・頸は、事務作業・パソコン作業の負担か？

危険自覚症状者率の推移

(頸・肩・腕・手指部のどこかに、「いつも」、「痛み」や「しびれ」や「ふるえ」や「動きのわるさ」がある者の率)

【年次推移】

【雇用形態別
(女性)】

(図中の点線は、女性全体の危険自覚症状者率17%)

【団体種別
(正規・女性)】

働き方の変化

(公共職業安定所に雇用される者を除いた、福祉・医療・教育の分野で働く手話通訳者について)

◆ 手話通訳件数が月30件以上

- 1995年 23.6%
- 2010年 21.5%
- 2020年 13.4%



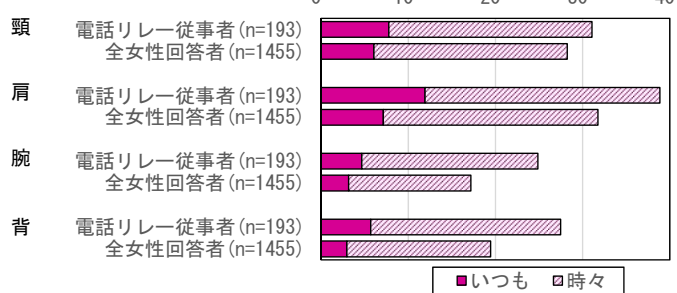
◆ 同一職場での手話通訳担当者が1名

- 1995年 49.9%
- 2010年 30.0%
- 2020年 28.2%

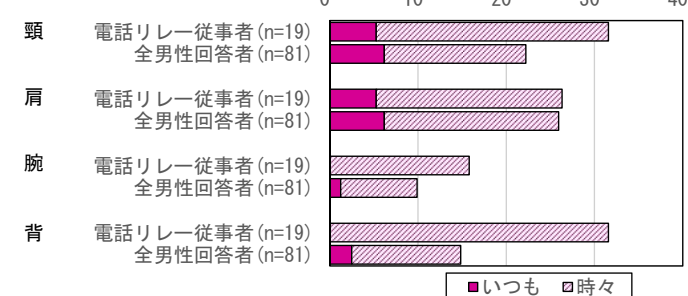


電話リレー業務従事者の頸肩腕背の痛み訴え率

【女性】



【男性】



適切な作業環境の形成

VDT作業を行う際には、明るさ、温度・湿度などが適切であることが大切です。





リレー通訳時の注意事項

- ① 肘置きが通訳動作に邪魔にならないこと。
- ② 机で手話動作がカメラに写りにくくなるようなら、机から離れて椅子に座る
- ③ テレビ通訳は15分交替。30分を超える通訳役は危険。20分を目処に。
- ④ 連続して担当すべきでない。担当した時間の3倍は、休憩時間を確保すべきでは。
- ⑤ この分野の調査研究が必要。

健康を守る取り組みの実施状況

2020年調査結果より

【学習会参加状況（％）】

年度 人数	1995* 803	2000* 985	2005 1,214	2010 1,413	2015 1,262	2020 1,537
あり	[58.3]	[53.4]	45.4	39.5	40.0	31.9
なし	[31.9]	[35.1]	42.4	54.8	56.1	61.9
学習会は行われていない	[9.1]	[11.1]	12.0	5.3	3.5	6.0

*1995年と2000年は「各地域において頸肩腕障害についての学習会に参加したことがありますか？」に対する回答。2005年以降とは質問の仕方が若干異なる。

【ストレッチ体操実施状況（％）】

年度 人数	1995 803	2000 985	2005 1,214	2010 1,413	2015 1,262	2020 1,537
ほぼ毎日している	8.5	8.7	12.4	15.1	17.0	19.3
ときどきしている	54.7	59.4	61.2	60.4	62.7	63.6
まったくしていない	31.5	29.3	25.6	23.3	19.7	16.5
やり方がわからない	4.7	2.0	0.6	0.6	0.5	0.5

【事業所による頸肩腕障害特殊検診実施・受診状況（％）】

年度 人数	1995 803	2000 985	2005 1,214	2010 1,413	2015 1,262	2020 1,537
ない	—	56.6	50.4	41.4	41.2	34.1
あるが受けていない	—	2.7	3.5	6.1	4.6	7.8
ある・受診している	—	35.3	44.6	51.0	53.1	56.2
検診結果が業務に反映	—	8.8	25.1	28.7	28.0	33.6
（検診ありの回答数に対する割合）	—	(23.2)	(52.3)	(50.2)	(48.5)	(52.5)

*1995年度調査「職場で頸肩腕障害検診あり」：30.3%

雇用形態別にみた健康を守る取り組みの実施状況

雇用形態	人	学習会	ストレッチ体操		頸肩腕障害特殊検診		定期健診
		過去1年 に参加	時々 する	毎日 する	検診	業務に 反映	あり
常勤		%	%	%	%	%	%
自治体・正規	88	30.7	68.2	13.6	81.8	38.6	100.0
自治体・非正規	383	35.5	64.2	17.2	59.8	30.3	96.1
団体・正規	171	35.7	65.5	18.1	87.1	55.0	97.1
団体・非正規	95	34.7	63.2	21.1	82.1	46.3	95.8
非常勤		%	%	%	%	%	%
自治体・非正規	406	25.9	64.3	17.0	58.4	28.6	57.9
団体・非正規	129	36.4	59.7	27.9	79.8	44.2	56.6
手話協力員	188	30.9	64.4	23.9	34.6	18.1	10.1

2020年調査結果より

2020年調査結果より

長時間の手話通訳における交替の有無 および交替しない理由（％）

	2015年 n=1,262	2020年 n=1,537
いつも交替している	38.5	38.7
交替しないことがある	51	50.2
交替していない	9	9.6
交替していない、及び 交替しないことがある者		
【交替しない理由】（複数回答可）	n=758	n=919
通訳の内容により、一人で通訳せざるを得なかった	66.8	63.7
自分以外に通訳者がいなかった*2	66.1	66.7
聴覚障害者から一人で通訳してほしいと頼まれた	5.1	3.6
先輩の通訳者から交替しないほうがいい（すべきではない）と教えられた	0	0.2
交替すると、話が途切れて通訳にくい	2.1	3.6

電話通訳におけるヘッドフォン・イヤフォン等 の使用状況（％）

	2015年 n=1,262	2020年 n=1,537
使用している	15.8	23.7
ヘッドフォン・イヤフォン等はあるが使用していない	5.9	7.3
ヘッドフォン・イヤフォン等がないので使用していない	62.6	50.9
電話通訳の経験はない	14.4	16.5

学習の継続

知らなければ行動できない

45



46

この5つについては 毎年（随時）チェックしよう！

- ◆ 業務や活動における過度な負担をなくし、休憩や休息を適切にとれているか
- ◆ 体や心に不適切な負担を生じないように、働く環境を整備しているか
- ◆ 日ごろからストレッチ体操や体力作りに取り組んでいるか
- ◆ 手話通訳者、要約筆記者、盲ろう通訳・介護者の活動にかかわる心身の負担や健康管理方法について繰り返し学習しているか
- ◆ 検診によって健康状態を把握し、健康状態に応じた働き方や活動を心がけているか